

個別施設計画

策定年月 | R2.1

施設名	倉敷鷺羽高等学校			所在地	倉敷市児島味野山田町2301		
敷地面積	38,400.00 m ²			棟数	31 棟 (計画記載対象 10 棟)		
延床面積	13,475.41 m ²				※対象は200m ² 以上の建物(車庫、倉庫等は500m ² 以上) ※公舎・寮は全て対象		
設置目的	高等学校教育のため						
【想定される自然災害】							
予想震度 6弱		津波 -		浸水 -			
建築規制	市街化調整区域 建ぺい率60%、容積率200%						
エネルギー使用量 (2018年度)	電気 290,252 kWh	ガス 655 m ³	水道 5,187 m ³	燃料 (灯油) 2,430 ℓ			
管理上の 特記事項	敷地内未利用地 なし 敷地内貸付地 なし 倉敷市指定緊急避難場所・指定避難所(洪水、土砂災害、高潮、地震、津波)						

1 施設内建物の概況

名称	管理・普通教室棟(38棟)17-1	普通教室棟(42棟)17-2	普通教室棟(63棟)17-5
築年(西暦)	1978年	1979年	1985年
構造	鉄筋コンクリート造 4階	鉄筋コンクリート造 4階	鉄筋コンクリート造 4階
建築面積	716.83 m ²	382.45 m ²	134.49 m ²
延床面積	2,940.69 m ²	1,529.48 m ²	537.96 m ²
主要な用途 (室名等)	普通教室 職員室 図書室	昇降口 普通教室	普通教室
主要な設備 (屋外を含む)	電力設備(受変電設備) 消防設備(自動火災報知設備) 空調設備 給排水設備 消火設備	空調設備 給排水設備	
利用状況	中	中	中
耐震性 ※1	有	有	有
躯体(コンクリート)の健全性 ※耐震診断済のみ	圧縮強度 ※2	適	適
	中性化 ※3	適	適
長期使用の 適否	建物傾斜 ※4	適	適
	地盤沈下 ※5	適	適
劣化状況 (劣化が進んでいるもの)	該当なし	該当なし	該当なし

※1 耐震性有:耐震診断の結果Is値≧0.6(震度6強~7程度で倒壊する危険性が低い)又はS56.6以降に建築の建物 (S56.6より前に建築の車庫・倉庫は耐震診断対象外)

※2 圧縮強度:13.5N/mm2未満は不適 ※3 中性化:築後65年時点でコンクリートの中性化が30mm以上の見込みは不適 ※4 傾斜が有る場合は不適 ※5 地盤沈下が有る場合は不適

名称	特別教室棟(41棟)17-3	特別教室棟(54棟)17-4	特別教室棟(74棟)33
築年(西暦)	1979年	1980年	2006年
構造	鉄筋コンクリート造 4階	鉄筋コンクリート造 4階	鉄筋コンクリート造 2階
建築面積	794.87 m ²	177.63 m ²	154.93 m ²
延床面積	3,021.87 m ²	710.94 m ²	342.01 m ²
主要な用途 (室名等)	生物教室 化学教室 美術教室	調理教室 被服教室 LL教室	介護保育実習室 総合実践室
主要な設備 (屋外を含む)	空調設備 給排水設備 消火設備		
利用状況	中	中	中
耐震性 ※1	有	有	有
躯体(コンクリート) の健全性 ※耐震診断済のみ	圧縮強度 ※2	適	適
	中性化 ※3	適	適
長期使用の 適否	建物傾斜 ※4	適	適
	地盤沈下 ※5	適	適
劣化状況 (劣化が進んでいるもの)	該当なし	該当なし	該当なし

※1 耐震性有:耐震診断の結果Is値 ≥ 0.6 (震度6強~7程度で倒壊する危険性が低い)又はS56.6以降に建築の建物 (S56.6より前に建築の車庫・倉庫は耐震診断対象外)

※2 圧縮強度:13.5N/mm²未満は不適 ※3 中性化:築後65年時点でコンクリートの中性化が30mm以上の見込みは不適 ※4 傾斜が有る場合は不適 ※5 地盤沈下が有る場合は不適

名称	体育館(56棟)22	生徒会館(58棟)35	格技場(61棟)24
築年(西暦)	1980年	1980年	1981年
構造	鉄筋コンクリート造 1階	鉄筋コンクリート造 2階	鉄骨造 1階
建築面積	1,355.12 m ²	320.11 m ²	377.80 m ²
延床面積	1,628.91 m ²	562.88 m ²	426.08 m ²
主要な用途 (室名等)	体育館	同窓会館	武道場
主要な設備 (屋外を含む)	空調設備 給排水設備		消防設備(自動火災報知設備) 給排水設備
利用状況	中	中	中
耐震性 ※1	有	有	有
躯体(コンクリート) の健全性 ※耐震診断済のみ	圧縮強度 ※2	適	適
	中性化 ※3	適	適
長期使用の 適否	建物傾斜 ※4	適	適
	地盤沈下 ※5	適	適
劣化状況 (劣化が進んでいるもの)	屋根	該当なし	該当なし

※1 耐震性有:耐震診断の結果Is値 ≥ 0.6 (震度6強~7程度で倒壊する危険性が低い)又はS56.6以降に建築の建物 (S56.6より前に建築の車庫・倉庫は耐震診断対象外)

※2 圧縮強度:13.5N/mm²未満は不適 ※3 中性化:築後65年時点でコンクリートの中性化が30mm以上の見込みは不適 ※4 傾斜が有る場合は不適 ※5 地盤沈下が有る場合は不適

名 称	国際交流会館(73棟)34		
築年(西暦)	2001年		
構 造	鉄筋コンクリート造 2階		
建築面積	196.00 m ²		
延床面積	392.00 m ²		
主要な用途 (室名等)	交流ホール 交流サロン		
主要な設備 (屋外を含む)			
利用状況	中		
耐震性 ※1	有		
躯体(コンクリート) の健全性 ※耐震診断済のみ	圧縮強度 ※2		
	中性化 ※3		
長期使用の 適否	建物傾斜 ※4	適	
	地盤沈下 ※5	適	
劣化状況 (劣化が進んでいるもの)	該当なし		

※1 耐震性有:耐震診断の結果Is値 ≥ 0.6 (震度6強~7程度で倒壊する危険性が低い)又はS56.6以降に建築の建物 (S56.6より前に建築の車庫・倉庫は耐震診断対象外)

※2 圧縮強度:13.5N/mm²未満は不適 ※3 中性化:築後65年時点でコンクリートの中性化が30mm以上の見込みは不適 ※4 傾斜が有る場合は不適 ※5 地盤沈下が有る場合は不適

2. 対応方針

(1) 施設全体の方針

老朽化の進んだ建物について修繕、改修を行い、使用を継続する。

(2) 建物ごとの方針

区分	対応方針
管理・普通教室棟(38棟)17-1	予防保全を図る。
普通教室棟(42棟)17-2	設備等の定期更新を行う。更新に当たっては、ユニバーサルデザイン化にも配慮する。
普通教室棟(63棟)17-5	予防保全を図る。
特別教室棟(41棟)17-3	設備等の定期更新を行う。更新に当たっては、ユニバーサルデザイン化にも配慮する。
特別教室棟(54棟)17-4	予防保全を図る。
特別教室棟(74棟)33	予防保全を図る。
体育館(56棟)22	長寿命化改修を行う。
生徒会館(58棟)35	予防保全を図る。
格技場(61棟)24	予防保全を図る。
国際交流会館(73棟)34	予防保全を図る。

3. 施設全体のスケジュール

(概要)

- 1 設備等更新
劣化状況を確認しながら順次更新を行う。
- 2 長寿命化改修
屋上防水を行うほか、内部・外部の改修を行う。
(56棟)2023年度以降設計・施工

(単位:億円)

区分	対応方針	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
管理・普通教室棟(38棟)17-1	予防保全			予防保全を図る。							
普通教室棟(42棟)17-2	設備等の定期更新				トイレ洋式化						
普通教室棟(63棟)17-5	予防保全			予防保全を図る。							
特別教室棟(41棟)17-3	設備等の定期更新				トイレ洋式化			トイレ改修			
特別教室棟(54棟)17-4	予防保全			予防保全を図る。							
特別教室棟(74棟)33	予防保全			予防保全を図る。							
体育館(56棟)22	長寿命化改修							設計・施工 3			
生徒会館(58棟)35	予防保全			予防保全を図る。							
格技場(61棟)24	予防保全			予防保全を図る。							
国際交流会館(73棟)34	予防保全			予防保全を図る。							

4. 概算費用

総額 3億円(長寿命化改修)

5. 変更履歴

変更年月	変更内容
R5.3	特別教室棟(41棟)において、設備等の定期更新を追加